

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和4年11月1日

事業所名：児童発達支援事業所 赤磐ぐんぐん

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			定員に対して部屋の広さは充分になるように、勉強やグループ活動や身辺自立エリアなど交代でスケジュールを調整しながら実施している。	お子さん本人・ご家族・職員となると手狭なこともある。スケジュール調整をすとともに、ゾーン対応などにして大人が一か所に集まり過ぎないよう職員配置に工夫をしていきたい。
	2	職員の配置数は適切である	○			「児発管（松田）以外に職員2名以上」が国の配置基準となっているため、赤磐ぐんぐんはそれよりも多く職員配置をしている。	職員の配置数が多い分、「誰かがしているはず」となることや曖昧な部分もあったため、視覚化しチーム連携を丁寧に行なっていきたい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			一つの場所（エリア）を一つの活動に使っていくことで混乱なく分りやすく活動できるようにしている。また、ねじなどで固定しきらず、お子さん一人一人の理解や学習スタイルに合わせて、柔軟に変化させるようにしている。	古い建物で増築を繰り返した物件であるため、段差があったり階段が一般家庭より少し急だったりするところはあると思う。改善できそうなところを職員で検討していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			コロナ感染対策の観点から、消毒・換気・清掃をチェックリストを用いてどの職員でもできるようにしており、しっかり実施している。今のところクラスターなども発生せずにやっている。	経年劣化しているものもあり、定期的に点検などを行っていきたい。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			毎日の療育前・療育後ミーティングを通して、職員全員でお子さんへの本人支援・ご家族への家族支援をチームで行えるよう、PDCAサイクルで考えるようにしている。氷山モデルやABC分析などを用いて、根拠を持った支援になるように検討している。	問題提起については以前よりも職員それぞれから出るようになってきており、活発にPDCAサイクルが動くようになってきている。今後も継続して取り組んでいきたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			年に一度の保護者向け評価表だけでなく、日々のご家族からのご意見や意向などは職員間で情報共有しながら支援に当たっている。	頂いたご意見を参考にしながら、より良い支援に繋げていけるよう、職員全員で切磋琢磨していきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			年に一度の評価結果を法人ホームページに掲載するとともに、日々いただいたご意見を参考にした改善案などをLINE配信などでお知らせしている。	ご家族からのご意見はもちろんのこと、職員同士でも日々のミーティングや隔週の勉強会で学び合い積極的に意見交換している。今後も意見の出しやすい環境の中でお互いに刺激しあいながら質の高い支援に繋げていきたい。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			県からの2022年度実地指導では支援の質・職員の意識の高さを評価していただけた。年間5回の川崎医療福祉大学諏訪利明先生による専門のコンサルを職員全員で受けることで、日々の支援に繋がられるよう努力している。また、外部からの専門家の見学なども多く受け入れている。	自分たちだけでは気づけない多くの気づきを外部からのご指摘などいただいている。今後も学びの姿勢を持ち続け、業務改善に繋げていきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			法人が行っている講演会や勉強会などの研修に加え、児発管（松田）が主催している隔週の療育スタッフ勉強会及び伝達講習など、職員同士で学びあう機会を作っている。新人育成プログラムも実施している。	職員一人一人が自分の年間目標を立てそれぞれ努力し、お互いにリスペクトしあう事業所になってきている。今後も、新人育成部門の事業所であるからこそスモールステップで丁寧に皆で成長していきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	○			利用開始時にPEP-3・CARSなどのフォーマルなアセスメント・家族への文書や聞き取りによるアセスメントを行いそれらを基に個別支援計画を作成している。また、今年度はインフォーマルアセスメントとして、コミュニケーションや社会性についてのアセスメントを家族と一緒にやった。	お子さんの課題・周囲の環境・ご家族のニーズなどを検討しながら計画作成しているが、お子さん自身の自己理解・自己選択には至っていない。今後少しずつ、お子さん自身の自己決定を応援していきたい。
	11	○			PEP-3・CARS・Vineland-II適応行動尺度・PSI育児アンケートなど標準化されたアセスメントツールを活用している。また、園の先生との情報共有シート・医療機関での発達検査の結果なども参考に情報収集している。	PEP-3の検査から見えてくるお子さんの課題・学習スタイル・支援の立案について、現在全職員で研修を行っている。今後、児発管以外の職員も検査や報告レポート作成できるようにスキルアップを目指していきたい。
	12	○			家族同室型療育だからこその「本人支援」「家族支援」を行うと共に、全利用児の通っている園に対して療育内容の情報共有シート作成し、電話でのケース会議などを行う「地域支援」を行っている。	「地域支援」の一環として、今年度も就学の移行支援＝サポートブック作成のフォローを年長児に行う予定。幼児期から年齢期への橋渡しを丁寧に行っていきたい。
	13	○			一つ一つの課題や活動がどの目標に繋がるのかなどを具体的に説明するよう心掛けている。また、計画にそった支援を行うため、日々児発管が職員からの相談に応じながら実施している。	ご家族に対するの説明不足ことや専門用語を使うこともあるため、職員間でしっかり意識し合いながら分かりやすい説明・支援の実施を行っていきたい。
	14	○			活動プログラムは、個別支援計画をもとにしたものをその日の担当職員が立案する形で行っている。今年度は担当制ではなくなったため、職員全員で計画を立て目標達成に向けて計画することができるようになっている。	その日の流れ全体を職員全員で確認しながら行っているが、職員の配置などに課題も多い。本人支援だけでなく家族支援を各々がどこで行うかなど細かい調整も行っていきたい。
	15	○			お子さん一人一人に合わせて作成された個別支援計画の目標やねらい・進め方に合わせた活動プログラムになるよう計画している。スケジュール自体も変更なども取り入れ、柔軟性を意識している。	楽しみながら新しいスキルを学んでいけるよう、興味関心を活用しながら活動プログラムを計画していきたい。
	16	○			ご家族と面談などで現状確認しながら、年齢・発達段階・機能性・ご家族のニーズなどに基づいて個別支援計画を作成している。個別活動・集団活動それぞれ狙いを持って取り組めるように計画している。	目標が達成した場合や目標としてあげていたものよりも優先度が高いものが出てきた際には、ご家族と相談しながら調整して支援を行っている。丁寧に説明しながら行っていきたい。
	17	○			毎朝8:30から全体ミーティングを行い、その日の活動や役割分担について確認している。相談への対応の際には、担当する職員をプラスでつけるなどの打ち合わせをしておくことで丁寧な支援に繋がっている。	視覚的に示されたものを活用しながら確認しあうことで、ミスや事故を防ぎ、全体の療育が行えると思う。療育中にもお互いに積極的に声掛けしあうことも、継続していきたい。
	18	○			毎日療育終了後全体ミーティングを行い、お子さんやご家族の情報を全体で確認している。また、どの学習スタイルからの言動だと考えられるか・相談対応としてはどのようなアドバイスが良いかなど積極的に討論がされている。	以前は児発管が主導するスタイルが多かったが、現在は職員からも積極的に「これについて相談したい」という話が出るようになってきており、活発な振り返りの時間となっている。お互いの意見を尊重しあうチームとして、これからも忌憚のない意見を出し合いたい。
19	○			日々の記録には、目標に対応する課題の取り組み状況・お子さんの様子・ご家族と話した内容・学習スタイル・今後の方針など具体的に誰が読んで分かる記録になるようにしている。	記録に残すことで個人の思い込みや価値観ではない情報になっている。新人職員は記録や次の計画を立てることに慣れていないので、職員全体でサポートしながら指導していきたい。	

	チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	20 定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			個別支援計画に基づいた支援を療育で行う中で、アセスメントを日常的に行っている。個別支援計画にそった支援をしていく際に、元々の計画からのずれがないよう、児発管が毎日記録や支援を確認し、相談に応じることで、支援が適正に行えるように配慮している。	個別支援計画はご家族と療育事業所との契約であるという意識を持ちたい。お子さんの現状やご家族のニーズの変化により優先度や支援の方向性などが変わる際には、必ず児発管の確認の下、面談を行い、新しい個別支援計画作成に移るようにしていきたい。
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			相談支援事業所へのモニタリングは、児発管が行っており、サービス担当者会議にも児発管が参加している。その場で出た話は、持ち帰り、職員全体に伝えることで日々の支援に繋がるようにしている。	オンライン会議なども活用しながら他の職員も同席できるようになればと考えている。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			市の子育て支援課・障害担当窓口なども積極的に連携している。児童相談所や福祉団体とも個人情報に配慮しながら情報共有している。	今後は職員それぞれが園や地域の関連機関と連携できるよう、児発管の活動に同席するなどする機会を持ちたい。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		医療的ケアが必要なお子さんや重症心身障害のあるお子さんの利用がない。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		医療的ケアが必要なお子さんや重症心身障害のあるお子さんの利用がない。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			全利用児の園と情報共有シートを活用した情報共有・ケース会議などを行っている。園側からの相談についても、お子さんの特性や学習スタイルを説明した上で、園で実施可能なアドバイスを心がけている。	ご家族から「園に指導に行ってもらいたい」との希望もあるが、まずは療育場面での実施⇒家庭での実施⇒園への相談という流れであることにご理解いただき、お子さんを主軸にした協力体制を整えていきたい。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			「就学に向けての勉強会」動画を作成し、小学校への準備や心構えについて視聴して頂く機会を持っている。また、サポートブック&シートの作成のフォローを全年齢児に対して行っている。	サポートブック&シートは、各地域・クラスによって学校の状況などが異なるため、ご家族と一緒に情報共有しながら移行に繋がるような支援を行っている。希望があれば学校とのケース会議も検討していきたい。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			複数の事業所を利用している場合、ご家族に同意をいただいた上で情報共有している。また、市内の児童発達支援事業所&センターとの合同研修も開催している。	オンライン会議なども活用しながら他の職員も同席できるようになればと考えている。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		毎日通所する事業所ではない・市内外からの利用が多い・個人情報保護の観点などから、行っていない。	
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			赤磐市自立支援協議会への参画・岡山県の親子教室連絡会でのオブザーバー参加・地域の幼稚園での講演会などを見発管が行い、連携した支援の一助になればと考えている。	オンライン会議なども活用しながら他の職員も同席できるようになればと考えている。

	チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			家族同室型療育のため、毎回ライブで療育の様子を見ていただき、その都度情報共有をする機会を持っている。母だけでなく父や祖父母など色々な保護者が同席して下さることで、密なやりとりを行うことができている。療育中にお話しできないことについてはLINEなどでも確認するようにしている。	LINEでの確認は便利という方が多いが、負担に感じられるご家族もいらっしゃるのので、療育中にできるだけお話しされるように、今一度見直していきたい。
	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○			昨年度は「ペアレントプログラム」「ふれあいペアレントプログラム」を実施していたが今年度は希望がなかったため実施していない。家族同室型療育を日々行う中で家族支援プログラムを実際に実施している。	コロナ禍のためなかなか開催できていないが、オンライン開催なども法人内で協議して実施していきたい。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			通所開始前に、ご家族に「重要事項説明書」などにあわせて、写真やイラストなどで分かりやすく説明し、ご家族から質問があった際には具体的な事例なども通して説明している。また欠席加算や相談支援加算などが発生した場合はその都度説明している。	警報発令・園行事でのお休みなどイレギュラーなことが発生した場合には、こちらからご連絡をし利用の機会を持っていただけるようにしている。今後も分かりやすい説明・提案をしていきたい。
	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			ご家族と面談の上、お子さんの現状・発達段階・ご家族のニーズなどから作成している。モニタリングした結果としてまとめシートをお渡しし、どのような狙いをもって取り組んできたか・お子さんの様子はどうか・次への課題としては何が考えられるかなどを書面でお渡ししている。	お子さん本人のニーズはまだ個別支援計画に取り入れることはできていないので、今後は本人の自己選択の機会を設定しながら取り組めるようなアプローチを考えていきたい。
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			連絡帳や相談用紙などを活用しながら、相談を受けるようにしている。職員一人の考えや価値観で答えるのではなく、職員全員で協議した結果としてお話しすることで、多角的な視点でのアドバイスができるように配慮している。	お子さんの行動の背景にある学習スタイル・環境要因をご家族と確認しながら相談に応じたい。実施可能な環境や関わりの工夫などを提案できるようにしていきたい。
	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			保護者座談会を療育時間内に不定期で開催し、同じ立場の家族だからこそ話せる色々なお話をする場を提供している。療育中にも、グループ活動などを通してお互いに話す機会を持っている。	父母の会としての活動はないが、当法人（岡山県自閉症児を育てる会）が親の会としての役割を持っているので、今後も案内していきたい。
36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			相談については、必ず職員間で情報共有し、緊急性に応じて迅速な助言や提案を行っている。また、申入れや要望があった際には、迅速に対応した後、個人情報に配慮しながら利用者に周知するようにしている。	ヒヤリハットが数多くの事故の氷山の一角であると同様に、相談や申入れも数多くの要望や不安の一部の表出であると考え、しっかり意識していきたい。
	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			赤磐ぐんぐんだよりを月一回発行（法人内会報用）・不定期でぐんぐんレター（スタッフブログ）を配信している。活動予定などの連絡については、LINE配信を活用し、伝えそびれないように配慮している。	ぐんぐんレター（スタッフブログ）は月に数回の更新になっているため、もう少し頻度をあげていきたい。
38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			個人の書類をお渡しする際には職員がチェックする・書類は名前のみが見えるようにして渡す・棚や名前表示は見えないように蓋つきのカゴに入れる・職員室内の掲示も見えない位置にするなど、個人情報に配慮している。	職員間でのヒューマンエラーが発生しないよう、チェック式で個人情報を隠し忘れていないかなどの確認もするようにしている。今後も気を付けていきたい。
	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			お子さんの表出コミュニケーションのアセスメントを家族と一緒にし、本人の分かりやすい方法で実施している。また、ご家族にも説明する際、口頭だけでなく書面を用いて説明することで、他のご家族にも共有しやすいようにしている。	お子さん本人が相手にコミュニケーションしようという意欲を高められるよう、場面や相手も様々でも活用する練習をしていきたい。また、ご家族と話す際には相互やりとりを意識し、こちらの意見を押し付けないように注意していきたい。

保護者への説明責任等

	チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を回っている	○			法人が主催するフリーマーケットなどのイベントで、利用者や地域の方々が一緒に参加できるようになっている。	
	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対応マニュアルなど、療育室内に閲覧できるように設置している。家族同室であり、毎日通所する事業所ではないため、日常的な避難訓練は行っていないが、避難経路などは伝達し、職員間での訓練を実施している。	書面だけでは分かりづらいと思われるので、今後は避難経路を動画で伝えるなど、実際の避難経路をご家族が実感できるようにしていきたい。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			火災発生時などの避難経路を、療育室内に掲示している。家族同室であり、毎日通所する事業所ではないため、日常的な避難訓練は行っていないが、避難経路などは伝達し、職員間での訓練を実施している。	書面だけでは分かりづらいと思われるので、今後は避難経路を動画で伝えるなど、実際の避難経路をご家族が実感できるようにしていきたい。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			年度ごとに提出していただく利用者ファイルにて必ず確認している。家族同室型なので個別的な医療ケアはご家族が行うことを前提としている。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			年度ごとに提出していただく利用者ファイルにて必ず確認している。家族同室型なので個別的な医療ケアはご家族が行うことを前提としている。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハットファイルを作成し、職員同士で意識しあうようにしている。事故に繋がりそうなことだけでなく職員のうっかり支援（伝え忘れていた・子どもが涙したなど）も記載することで、再発防止に努めている。	事故隠しや支援のごまかしにならないよう、報告し合うことを推奨し、「次回どうするか」を協議し合う機会として活用している。今後も積極的にヒヤリハットを見直し、より良い支援に繋げていきたい。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			法人内の虐待防止委員会に児発管が参加し、月に一度確認している。虐待が疑われる事案が発生した場合は速やかに関係機関連携を行っている。	事業所としての虐待はないが、家庭内でのことをご家族から報告いただくことがある。家族の孤立感や子育ての疲労などが原因のことが多いため、丁寧にメンタルケアを行ってきたい。
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			身体拘束はいかなる場合も行わないため、個別支援計画への記載はない。混乱・パニックなどが発生した場合は、ご家族と相談し、ご家族自身に抱っこなどをさせていただいている。		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。